行政評価シート（事務事業評価）

評価年度	28 年度

事業名	生涯学習フェスタ事業	担当課	教育課
細分化した事業名	生涯学習フェスタ事業		

1 計画（PLAN）：事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	魅力あふれるまちづくり
	政策	いつまでも生きがいを持って暮らせるまちづくり
	施策	生涯学習の推進
関連する個別計画等		根拠条例等

2 計画（PLAN）：事務事業の概要

事業の目的	生涯学習に係る活動の場を提供することにより、市民一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるとともに、学習活動への参加を促す。
事業の手段	・毎年１１月の土曜日曜の２日間をかけ、東京エレクトロン韮崎文化ホールにて開催。１日目は文化協会及び中高吹奏楽部の発表。２日目は公民館関係やモデル校の実践発表と記念公演を行う。なお、書道や絵画作品などの展示は両日を通し実施。 ・地区公民館には「生涯学習推進の集い」の事業に、地区分館には「生涯学習まちづくり学習会」の事業に補助を行う。
事業の対象	市民全般及び地区公民館・地区分館

3 実施（DO）：投入費用及び従事職員の推移（インプット＝費用＋作業）

		25 年度	26 年度	27 年度
A 事業費	（千円）	4,231	4,174	4,310
財源内訳	国・県支出金			
	その他（使用料・借入金ほか）			
	一般財源	4,231	4,174	4,310
B 担当職員数（職員 E）	（人）	0.38	0.38	0.38
C 人件費（平均人件費×E）	（千円）	2,467	2,581	2,551
D 総事業費（A+C）	（千円）	6,698	6,755	6,861
主な事業費用の説明	実行委員会への事業委託料、地区公民館などへの補助金			

注）平均人件費は各年度決算額（職員給与費）から算出した 25 年度（6,491 千円）,26 年度（6,794 千円）,27 年度（6,715 千円）を使用しています。

4 実施（DO）：事業を数字で分析（アウトプット＝事業量）

		指標名	指標の算出方法	実績値 25 年度	26 年度	27 年度
活動指標	1	フェスタ発表件数	発表団体数	45	44	42
	2	地区公民館・分館への補助件数		101	101	101
	3					

妥当性		□ A 妥当である　■ B ほぼ妥当である　□ C 妥当でない
上記活動指標と妥当性の説明	1	市文化協会及び公民館活動の貴重な発表の場となっているので妥当である。
	2	事業に補助することにより、各公民館において自主的な活動が展開されているので妥当である。
	3	

5 評価（CHECK）： 事務事業評価 （アウトカム＝成果・効果）

		指標名	指標の算出方法	実績値 25 年度	実績値 26 年度	実績値 27 年度
成果指標もしくはまちづくり指標	1	生涯学習フェスタアンケート満足度（上：発表部門、下：展示部門）	良いと答えた人数/回答人数（%） 88 人/115 人 96 人/115 人	81.8 89.1	68.8 77.1	76.5 83.5
	2	生涯学習フェスタ参加者数(上：出演者、下：入場者含む)	延べ人数（入場者数は推定）	1,361 （3,000）	1,533 （3,400）	1,581 (3,100)
	3	展示作品数（点）	文化協会・公民館・文化祭入選作品・図書館調べる学習	660	667	750

成 果		□ A 上がっている ■B ほぼ上がっている □ C 上がっていない
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	参加者の満足度は発表・展示の両部門で上昇した。アンケートでは「真剣に頑張っていて見ごたえがあった」や「学校の吹奏楽が良かった」などの声があった。
	2	２７年度に比べ２６年度の入場者が多かった理由は、市制６０周年として前夜祭も実施したため。参加者は少しづつであるが、年々増えている。
	3	展示作品は文化協会、公民館、学校の入選作品（書道、絵画等）、調べる学習コンクールの入選作品(26 年度より)などを展示。年々出品者は増えている。

事務事業総合評価	□ A 期待以上に達成 ■ B 期待どおりに達成 □ C 期待以下の達成

6 改善（ACTION）：今後の事務事業の展開

今後の事業展開	□ 拡大（コストを集中的に投入する） ■ 一部改善（事務的な改善を実施する） □ 全部改善（内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要） □ 縮小（規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する） □ 廃止（廃止の検討が必要）
事務事業の改善案	改善の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか） 28 年度の改善計画（今後の事業展開説明） 生涯学習フェスタについては、今年度初めて実行委員会を開く前に、文化協会と公民館による合同打ち合わせ会を実施した。会ではフェスタ１６の発表に向け、様々な意見が出され、課題を抽出することができた。この課題については、実行委員会までに各種団体と調整を図る。 また、フェスタ入場者については、各団体が魅力あるものを提供しなければ２日間を通じての集客は難しいと思われるが、一方で「文化活動の発表の場」として舞台を提供している側面もあり、発表者の参加意欲を無暗に削ぐことも出来ないのであまり高い目標を掲げることは困難である。
過去の改善経過	・平成２１年度から文化協会の「韮崎市文化祭」と公民館の「生涯学習推進の集い」を「生涯学習フェスタ」として同時開催。 ・平成２７年度に「韮崎市生涯学習振興費補助金交付要綱」を策定。地区公民館運営費補助と生涯学習推進事業補助を一本化。
課長所見	平成２８年度は生涯学習フェスタへの観客動員数増加を目指したい。